

目指す学校像	「生徒が通いたい、保護者が通わせたい、職員が働きたい、地域が応援したい学校」 ○笑顔あふれる学校 ○あいさつの飛び交う学校 ○歌声の響く学校
--------	---

重点目標	1 誰一人取り残さない多様な学びを実現し、真の学力の基礎を身に付けた生徒の育成 2 生徒が自分に自信をもち、自己肯定感を高める指導の推進 3 保護者、地域との信頼関係のもと、学校を核とした持続可能なスクール・コミュニティの構築 4 一人ひとりがもてる力を発揮する、【well-being】な教職員集団の確立
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価		
年 度 目 標							実施日令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	【現状】 ○R5 全国学力・学習状況調査、さいたま市学習状況調査では、全国平均は上回っているが、市平均は下回っている。 ○R5 さいたま市学習状況調査では、「各教科の授業の内容はよく分かりますか」の肯定的な回答の割合は、教科によっては市の平均を下回っている。 【課題】 ○R5 学校評価(生徒)「授業に一生懸命取り組んでいる」の肯定的な回答の割合は88.2%であったが、学校評価(保護者)「分かりやすい授業の工夫」64.6%と顕著な差が見られる。 ○ステップアップルーム(Sola る一む)を利用している生徒も多く、オンライン授業を含めた学習環境の整備も課題の一つである。	・学力に向けた教職員の指導力向上に関する取組 ・学びの自律化に向けた情報端末の活用・授業改善	①全国や市の学習状況調査などのエビデンスを活用し、本校の課題解決のための授業力向上研修の実施(年2回以上) ②中学校区の児童のデータを活用し、学力向上カウンセリング学校訪問を実施し、入学前、入学当初に現状把握を行い、授業の工夫改善を図る。	①令和6年度学校評価の保護者アンケート「分かりやすい授業の工夫」の項目における肯定的な回答70%以上を達成できたか。 ②市教委の学力向上カウンセリング学校訪問を実施し、授業改善を図ることができたか。					
2	【現状】 ○心的不安やストレスを抱えた長欠生徒が多く、自傷行為等のある心配な生徒が複数いる。 ○心と生活のアンケート結果からも、「解決スキル」「信頼自己」の得点が低く、要面談に該当する生徒が各学級に複数名点在し、学校全体で生徒の自己肯定感を高める手立てを取ることが必須である。 【課題】 ○生徒一人ひとりの状況をていねいに把握して、生徒・保護者への初動・初期対応をスピーディーかつ組織的に行うことに課題が残る。 ○複数の生徒への対応、重要・重大事案の対応を同時期に行うことを迫られ、教職員が疲弊している。	・危機管理の徹底と初期対応とスピーディーな対応 ・それぞれの生徒・保護者の思いを受け止め寄り添い、誠実に対応する支援体制の実働	①「ほめて育てる」(認め、励まし、支える)声掛け、指導・助言の在り方を全教職員で共有し、実践する。 ②本物に触れる体験活動を実施し、本気で取り組むことで得られる達成感や成就感に気づかせ、本気で取り組もうとする生徒を育成する。	①学校評価に係る生徒、保護者アンケートの関連する項目で、肯定的な回答を9割以上の生徒・保護者から得ることができたか。 ②プロによる本物に触れる授業や行事の実施ができたか。					
3	【現状】 ○PTAと連携し情報発信アプリを活用して効果的に学校からの情報を発信している。 ○学校運営協議会において保護者、地域と連携し、目指す生徒像の実現に向けて積極的な熟議を積み重ねた。地域も協力的であり、学校との連携は履かれている。 【課題】 ○学校HPには保護者への通知文やお知らせが不十分なため、内容を従事させ、より積極的に学校の取組を発信し、家庭、地域の理解と協力を求めていく必要がある。 ○学校運営協議会への生徒の参加が実施できておらず、地域と生徒が意見交換をする場を作る必要がある。	・開かれた学校づくりに関する取組 ・学校運営協議会を基盤とし家庭、地域と連携を密にした特色ある学校づくりに関する取組	①学校ホームページに、学校運営協議会及びSSNの情報を発信するページを作成し「目指す生徒の姿」を広く共有できるようにするとともに、保護者通知も広く共有できるようにする。 ②地域の方に教育活動を観ていただき、学校の教育活動や生徒の成長に係る関心を高める。	①保護者への学校評価アンケート「積極的な情報発信」の項目における肯定的な回答95%以上を達成できたか。 ②毎学期の学校公開の実施ができたか。					
4	【現状】 ○教職員事故撲滅に向けて管理職等から継続した声掛けや研修等の実施、必要に応じた指導を行っているが、家庭から不安の声が聴かれる場面が見られる。 ○経験の浅い教員も多く、指導力や社会力に差があるため、生徒の指導や保護者対応に苦慮する場面もある。 【課題】 ○教職員一人ひとりが人権意識を高め、より主体的に温かみのある指導を実践する必要がある。 ○ベテラン教員による若手教員への指導、支援が少なく、若手教員の業務圧迫によって心身に影響を与える場面がある。	・一人ひとりの多様な幸せ(Well-being)を大切にしている学校づくりの推進	①教職員事故防止に向けて新聞記事の活用や指導及び事例研修を年5回以上実施する。 ②外部講師を招き人権意識を高める教職員向けの研修会を実施する。 ③若手教員育成のため、管理職に加え、ミドルリーダーに指導・支援の役割をあたえる。	①学校評価(教職員)「和を大切にし、明るく活力のある職場づくりに努めているか。」の項目において、3.0以上達成できたか。 ②管理職等による若手教員への面談の実施ができたか。(毎学期)					